



## 牛玉所殿裏の水かけ誓願不動

楽しい会陽行事

7月21日(土)	夜待まつり(額あんどん奉納・会陽太鼓・花火の打上げ)
8月18日(土)	水まつり ご先祖供養(塔婆供養・灯ろう流し)

岡山市東区西大寺中3-8-8  
TEL(086)942-2058  
観音会広報委員会発行  
平成24年7月15日

溫故知新

主戰平生全志

他方、他殺率は世界第二位の低さであり、交通事故死については、昭和四十五年の一万六千七百六十五人をピークに減少を続け、昨年は四千六百十一人という統計が発表されています。ここで、「アレッ！」と思うのは私だけでしょうか。毎日、テレビや新聞を賑わす凶悪事件や悲惨な交通事故に比べ、自殺者の報道がなされていないのです。問題として議論されにくく、亡くなつた三万人以上の事情が複雑であり、ご遺族への配慮という事もあるかも知れませんが、メディアが目を逸らしているとしか思えません。

将来を担う二十歳未満の三人に一人が「自殺を考えたことがある」と答える日本は異常とか言えません。しかも「日本の将来はますます悪くなる」と考えている人が多い、この現実。市場原理主義による高度成長

日本は貧困国といわれるブータン国民の『世界一の幸せ度』から学ぶ事が多いと思います。肉体的・物質的な満足感は一瞬であり、精神的豊かさという財産は一生ものです。今こそ一人一人が精神的豊かさを求める毎日に方向転換しなければ、世界の一の精神的貧困国になりかねません。その先に待っているのは、さらに悲惨な子孫です。

日本文化は千五百年に及ぶ仏教を基盤とした先人の知恵の中に生かされています。何でも過去の遺物であるかの如く、古き良き文化や伝統を否定する風潮に、私は強い危機感を抱いています。

は、私たちに幸せを運んでくれると信じていましたが、代償として大切な心の一部を失いつつあります。バブルが崩壊した後、心の大切さ、命の尊さを忘れかけた私たちに残された選択肢としての自殺者の多さ：インドのある寺院に棲みついだ白い猿は、少ない餌を分け合いい、弱者をいたわる仲の良い猿社会を作っていました。しかし神の化身であると噂になり、餌が益れるようになつてしまき、力

第 50 号

かけましたらまだ高野山大学の二年生で、二十歳のことでした。彼が高校二年生の時にご両親と西国を巡礼していた時に、ふと、人の為になる仕事がしたいとお坊さんになる決意をしたそうです。在の方で今まで全く仏事に関して興味がなかったにも関わらず、お坊様になろうと志す青年に、私は大変興味を持ち、彼に色々な質問をしたのですが、その返事もいつも笑顔で自信に満ちた笑顔で回答をくれました。その後、御両親は離婚をされたそうで、現在は母上と二人とのことでした。母の為にも頑張りますと笑顔で応えていたのも大変印象に残りました。是非頑張り抜いて立派なお坊様になつてもらいたいです。

二日目は京都へバスを走らせ、法金剛院を参拝し、昼食を嵐山でとり、帰岡致しました。

最後に、今回御同行を認めて頂きました坪井副住職様に心より感謝を致すとともに、道中皆さんの為に今年で二十七年目にになるとお聞きしましたが、お世話下さった妹尾様に心より御礼を申し上げましてご報告とさせさせていただきます。ありがとうございました。

また新堀の川すじにはさつきが植えられ、五月には色とりどりの花を咲かせて います。

この西川は、寛文十二年（一六七二）今から約三百四十年前に掘られたもので、その後沖新田の干拓が完成し九蟠、豊田、金田などの灌漑用水として延長



## 西川の川面にゆれる盆燈籠

西大寺の町中を流れる西川は  
鳴越用水ともよばれています。  
八月の水祭には、燈籠流しが行  
われ、ろうそくのあかりが水面  
にゆれながら流れゆく風景は夏  
の風物詩になっています。

西川の恵みとくらー(1)

されたものといわれています。昭和二十九年と三十八年二回にわたつて田植前に鳴越井堰の堤防が決壊し、西川の水は極端に減りました。農家では、バーチカルポンプを総動員して田に水をかえ込むというハプニングが起きました。この時程西川の水の有難さがわかつたことはありませんでした。また工業用水として、山陽板紙、印刷局、エクスランの工場にも利用されています。昭和三十一年エクスランの誘致の際、関係者が鳴越井堰の水量を観察して即座に決めたという話も残っています。

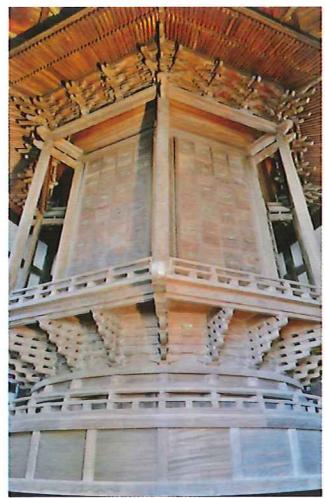
編集後記

暑い夏がやってきました。今年は電力不足の心配もあり都会で暮らす人は大変だと思います。それでも津波で家を奪われた方、福島で避難を余儀なくされている方の対策はどうなっているのでしょうか、政府の対策の遅さばかり目立ちます。自分が病気になって始めて病気の人の気持ちが分かるように、政府も絆々と言うより先に被災者に寄り添った対応を願うばかりです。

子供たちには楽しい夏休みです。観音院でも7月の夜待祭り（額行灯・会陽太鼓・打ち上げ花火）、8月の水祭り（盆踊り・灯籠流し）と楽しい行事が行われます。吉井川の涼風にあたりご家族で観音院においで下さい。

ランティアにより「西川にかかる十二の橋」を巡るパンフレットができるばかり、西川を歩いてみようというイベントが行われているようです。

平成二十四年二月三十日没(享年六十二歳)  
山根 章太郎

木齋代表  
山内栄紀

## 西大寺の未開お堂 「六角堂」(経蔵) 再興への道

「直るかどうか見てもらいたい物があるそうじや」というお話を四国の御住職からお聞きし西大寺客殿の鐘を鳴らしたのは昨年の年末の事でした。副御住職に案内され漆喰塗りの経蔵の扉の中には目を見張るばかりの見事な輪蔵がありました。輪蔵は全国的にも数が少なく私自身、輪蔵を最後に見たのは千葉県の名刹成田山新勝寺の総門建立工事に三年掛かりで参加していた時だつたと記憶していますが、珍しい物なので何度も足を運び眺めたものでした。

戦国時代の観世弥次郎長俊作の能に「輪蔵」という演目があります。今は昔、旅の僧が訪れた先の見事な輪蔵を拝んでいると老翁が現れ「輪蔵を礼拝し転げればすべての経を読むのと同じ功徳を得る事が出来ますぞ」と言い残します。不思議なことに夜になると輪蔵の御本尊が姿をお現しになり、僧の手を取り輪蔵を回し経を転読して一切の経を授けられたという粗筋です。西大寺の輪蔵は破損し回転不能となっていましたが、今は無事修理も終わり半世紀ぶり以上で

来年も又楽しみに、しっかりと生きてゆきたいと思います。

た。一方源氏側は皆既日蝕の天変地異に驚き恐怖に逃げていったとのことです。岡山で八百年前にこの様な日蝕の歴史があつたことは驚きます。

日蝕当日岡山は、朝から見事な快晴で、食事が最大になつた時は暗くなり、乗用車のライトが自動点灯しました。科学の進んだ現在でも驚きます。ましてや皆既日蝕になると暗い太陽の周りに仮像の輝きが取り囲むと日蝕を知らない人達は腰を抜かすことでしょう。

もう一つの太陽の天文現象は金星の日面経過です。六月六日に太陽が源平合戦水島の戦い寿永二年十月一日(一一八三年十一月十七日)皆既日蝕(完全に太陽が月に隠される)があり平家方に識があり日蝕を予知していました。本当に天文学が豊富になりました。

高野山参拝

田岡良一

六月二日・三日と坪井副住職様をはじめ西大寺檀家の方と高野山へ参拝しました。参加者の最高齢は九十三歳の方もおられましたが、皆様大変お元気でそれも見てみたい、などと勝手な事を思つたりしつつ社寺建築に携わる大工として今回の稀有な工事を担当させて頂くに至つたことは御仏縁と思い感謝の念が絶えません。関係者の皆様、誠に有難うございました。



高野山参拝記念 於総本山金剛峯寺

れぞれにお大師様のお陰を頂いて参りました。

私も何度か高野山へは参つていますが、今回は金剛峯寺の内部や靈宝館、大師教会本部では重要文化財に指定されている多くの仏像を拝ませていただきました。また最後に多くの著名人が眠るお墓を通り奥の院へ参拝致しました。

## 総報告会

### 観音会総会に参加して

M・H

春五月恒例観音会総会に夫婦揃って参加させて頂きました。

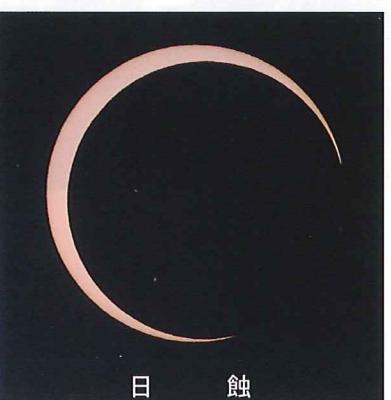
各家の先祖代々の経木塔婆を前に御住職を始め全山あげて厳かに先祖供養が行われ、つづいて黑白の正装の御詠歌は暫し、私達を観音の世界へ導いてくれました。

つづいて役員の方々により事業報告が行われ、役員の方々の献身的な御努力により當まれている事に感服致しました。

次に田渕様、高月様による講演(癒しのココス)は童謡、唱歌の歌詞を入れ替えて歌うなど樂しかつたです。でもなかなか思う様に歌えませんでした。

続いて待望の院家さまの法話は昨年来、大地震を始め何が起きるかわからない世界では自分の心の中に菩薩を頂き強く生きる事が必要というお話だったと思います。

時間が瞬く間に過ぎ最後の抽選会では、何と二人揃つて豪華景品が当たつてしましました。厚かましくも有難く頂いて帰りました。



日 蝕

五月二十一日全国的に金環日蝕が観測されました。残念ながら岡山では金環蝕にならず細い弓状の太陽におわりました。

### 太陽観望記

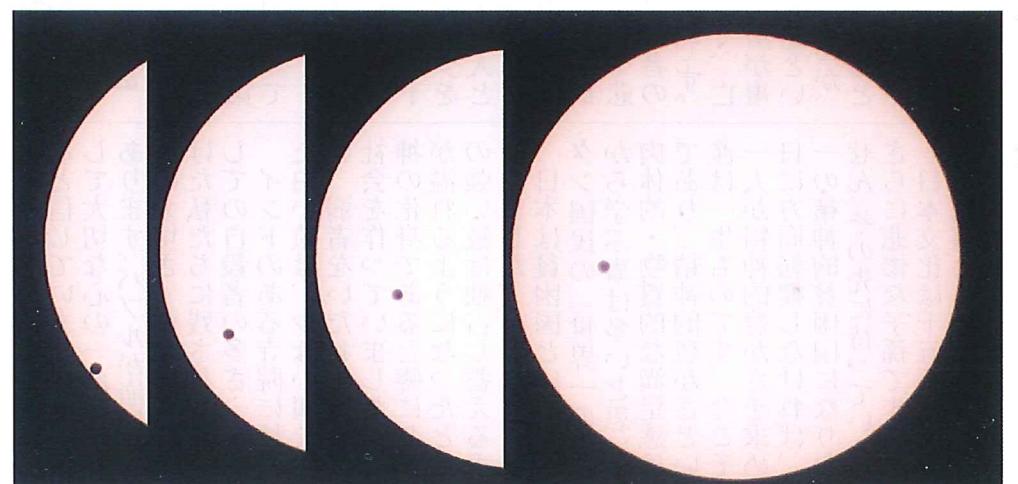
M・H

た。一方源氏側は皆既日蝕の天変地異に驚き恐怖に逃げていったとのことです。岡山で八百年前にこの様な日蝕の歴史があつたことは驚きます。

横浜・神戸・長崎の港に外国人ら多くの観測者が集まりました。これは港の正確な経緯度を知るためです。

日蝕当日岡山は、朝から見事な快晴で、食事が最大になつた時は暗くなり、乗用車のライトが自動点灯しました。科学の進んだ現在でも驚きます。ましてや皆既日蝕になると暗い太陽の周りに仮像の輝きが取り囲むと日蝕を知らない人達は腰を抜かすことでしょう。

もう一つの太陽の天文現象は金星の日面経過です。六月六日に太陽が源平合戦水島の戦い寿永二年十月一日(一一八三年十一月十七日)皆既日蝕(完全に太陽が月に隠される)があり平家方に識があり日蝕を予知していました。本当に天文学が豊富になりました。



金星の日面経過